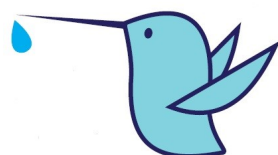


2022年助成事業 実施報告

実施期間 2022年4月1日～2023年3月31日



ご寄付をいただいた皆さんの思いが

助成団体の活動となって、子ども・若者・子育て家庭の

もとに届いた様子を、ぜひお読みください。



ぎふハチドリ基金2022年度助成事業 募集要項（概要）

【A-1】事業助成 1件あたり上限50万円 総額200万円程度

さまざまな理由から困難を抱えている子ども・若者・子育て家庭が、自分らしく、安心して暮らせるよう、地域で支える取組みに対して、必要な費用を助成します。

<対象事業>

- (ア) 「子どもの貧困」対策（貧困の連鎖を断ち切る）事業（イ）困難を抱えた子どもを支援する事業
- (ウ) 困難を抱えた若者を支援する事業（エ）困難を抱えた子育て家庭を支援する事業
- (オ) その他、子どもや若者をめぐる課題を解決するための事業

* 今までの助成事業の例 … ・学習支援活動 ・居場所づくり ・食事・食糧の提供 ・就労支援 ・相談活動 など

【A-2】ステップアップ助成 1件あたり上限30万円 総額100万円程度

子どもや若者、子育て家庭の抱える困難を解決するための活動を新しく始めたり、今までの活動を向上または安定させるために必要な費用を助成します。

<対象事業>

- (ア) 法人格（NPO法人、一般社団法人等の非営利法人に限る）取得のための準備事業（イ）新規事業のニーズ調査事業
- (ウ) 資金調達の仕組みづくり事業（エ）スタッフのスキルアップ研修事業（オ）その他、事業や団体の基盤強化のために必要な事業

【B】利用者負担軽減助成 1件あたり上限20万円 総額80万円程度

団体で実施している以下のような活動の利用料等を、経済的困窮家庭に対して軽減する場合、団体が負担した軽減分を補てんします。

<対象事業>

- (ア) ファミリー・サポート事業、学童保育事業など、子どもを預かる事業（イ）困難を抱える家庭の子どもや若者への個別支援事業
- (ウ) その他、「ぎふハチドリ基金」の設立趣旨に沿った内容と思われる事業

【C】冠助成

企業・団体等からの使い途指定の寄付金（冠寄付金）による特別メニューです。

C-1 「物品購入助成」（東海ろうきん未来応援基金）1件あたり上限10万円 総額20万円程度

東海労働金庫の社会貢献商品に拠る寄付金を基にした「東海ろうきん未来応援基金」を活用。困難を抱える子どもや若者、子育て家庭の支援する事業に必要な物品で、以下の条件すべてにあてはまるものの購入を助成します。

- ① 支援活動のために、継続して使用するもの（単発のイベントのみに使うものは対象となりません）
- ② 1年以上使用し、形として残るもの ③ 「ぎふハチドリ基金×東海ろうきん助成」と明記して使用できるもの

C-2 「交流会開催助成」（こくみん共済coop・子ども成長基金）1件あたり上限10万円 総額20万円程度

こくみん共済coop岐阜推進本部からの寄付金を活用。子育て家庭の孤立・孤独を防ぐため、地域の子育て家庭が集まって、交流できる機会を提供する取組みに対して助成します。

- 例) ・子育てサロン、子育て広場、子育て相談会など地域の親子が交流できる場の提供
- ・コロナ禍で外出を制限された子育て家庭が安心して集える場の提供

C-3 「広域活動助成」（東海ろうきん未来応援寄付金）1件あたり上限100万円 総額300万円程度

東海労働金庫からの寄付金を活用。子どもや若者、子育て家庭が抱える課題を解決するための事業に助成します。ただし、以下の条件をすべて満たすことが必要です。

- ① 岐阜県内に主たる事務所があること。 ② 岐阜県内で複数の市町村にまたがって実施する事業であること。
- ③ 申請額が50万円以上であること。 ④ 事前の個別相談（3/14～5/8）に1回以上参加すること。
- ⑤ 2023年3月以降に開催する報告会で、事業の成果を発表すること。

【D】たんぼ薬局「キッズまんぱく」基金「こども食堂応援助成」（2年目）1件あたり年5万円を2年間助成 総額 各年20万円

たんぼ薬局（株）の寄付による特別メニューです。子どもの食事の提供に関する活動に対して、1件あたり5万円を2年間助成します（報告、精算は1年ごと）。対象となる事業は以下のいずれかにあてはまるものに限りです。

- (ア) こども食堂（イ）学習支援や居場所などの事業の中で、子ども達に食事を提供する活動
- (ウ) 経済的困窮家庭に対して、食料や食事を提供する活動

ぎふハチドリ基金助成事業について

ぎふハチドリ基金助成事業は、市民からの寄付金を原資に、困難を抱える子どもや若者、子育て家庭を支援する事業に対して助成しています。

創設の年の2012年度から助成を実施してきたので、2022年度助成は11年目の助成になりました。法人化前（6回で68件、総額約771万円）法人化後（5回で105件、総額約1,787万円）、合わせて173件の事業に対し、累計約2,558万円の助成を実施できました。

2022年度助成は、新しい冠助成メニューができたことにより、前年より、助成実績額が340万円程増えました。コロナ禍は収まりつつあるものの、助成事業実施団体は、常に活動に参加される皆さんの健康に気を遣いながら活動されていたと思います。報告書には書かれていないご苦労もたくさんあったらうなと思いながら、各団体の報告をまとめさせていただきました。

ご寄付をいただいた皆さんの思いが、助成団体の活動となって、子ども・若者・子育て家庭のもとに届いた様子を、ぜひお読みください。



- 募集期間 2022年4月1日～5月20日
- 助成対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日
- 助成事業の決定 2022年6月21日
- 採択証交付式 2022年6月25日
- 事業の実施報告 2023年4月10日まで



■ 2022年助成事業 助成結果

助成件数：全27件（昨年度から継続の助成事業3件含む）

助成総額：6,664,447円



【A-1】事業助成 全10件 合計2,332,846円

【A-2】ステップアップ助成 全2件 合計400,000円

【B】利用者負担軽減助成 全3件 合計332,500円

【C-1】「物品購入助成」（東海ろうきん未来応援基金） 全4件 合計259,101円

【C-2】「交流会開催助成」（こくみん共済coop・子ども成長基金） 全2件 合計200,000円

【C-3】「広域活動助成」（東海ろうきん未来応援寄付金） 全3件 合計3,000,000円

【D】たんぽぽ薬局「キッズまんぷく」基金「こども食堂応援助成」（2年継続2年目） 全3件 合計150,000円

【A-1】事業助成 全10件 合計 2,332,846円

① ニコニコ体操クラブ (本巣市)

助成事業名 障がい者、ひきこもりの若者の心と体の健康作りと居場所作り事業

助成額 200,000円(総事業費445,492円)

実施内容

- 障がい者、ひきこもりの若者等の余暇の充実と居場所づくりを通して、心と体の元気、健康作りを目的とした健康体操教室を運営した。
- 糸貫老人福祉センター 月2回 対象者46人(知的障がい者の親子等)年間実績 教室25回 延べ参加人数441人
- マンネリ化を防ぐため、新たにモルックを導入して活性化を行った。

参加者・対象者の様子

障がい者の生活のルーティーンになって、定着してきている事を実感する。教室は笑顔があふれ、笑い声の絶えない体操教室になっている。また、保護者が定期的に集まる場所にもなっており、情報交換、悩みの相談など、教室が終わった後もしばらく懇談するような様子がある。教室が良い居場所作りと情報交換の機会になっていると感じる。

日頃の練習風景



事業の成果

- 助成事業により、広報用の3つ折りパンフレットを印刷業者に依頼して作成した。これを配布し、とても好評であった。新規会員4名の獲得ができた。会員相互の繋がりから、施設への入所ができた者もいる。
- 皆勤賞を新たに設けた結果、コロナで自粛したが前年と同水準を達成した。会費収入もわずかな伸びがみられた。
- 本巣市芸能祭に参加し、障がい者の輝く姿を見た観客から大きな拍手や歓声を受けた。会員の大きな励みになった。
- ひきこもりの若者を社会生活に繋がるよう働きかけ、対象者が一名増加した。継続して参加するようになり、一步前進した。
- 出前で使用する貸出用3B体操用具を助成金で追加購入し、体験者やジュニアリーダー育成に利用する等、若者にPRすることができた。

寄付者へのメッセージ

基金の助成がなければ、当クラブが抱える様々な課題が克服することができず、活動も進まないことが予想されました。貸出用体操用具や音楽CDの購入、有償ボランティアの育成、皆勤賞の景品の購入など助成なくして達成されなかった事ばかりです。またモチベーションを上げるためには、イベントを定期的に行うことが必要と考えています。景品をもらった時の笑顔を見ればその効果は明らかです。当クラブは、障がい者やひきこもりの若者の心と体の健康作りと保護者を含めた居場所作りを大きな目標にして、立ち上げました。支えてくださったのは寄付者の方のおかげだと考えています。心から感謝し、お礼を申し上げます。

② 岐阜キッズな(絆)支援室 (岐阜市)

助成事業名 困窮家庭への個別支援事業

助成額 344,000円(総事業費543,801円)

実施内容

- ◆「コロナ禍に配慮したオンライン個別学習支援」
実施場所: スタッフと子どもの各家庭
対象者: 特にオンライン個別支援が必要な小・中・高校生10名
参加人数・回数: 年間で202回272時間。
(本助成金は半年分104回129.5時間分で使い切った)
ICT環境を整備しタブレットを貸出し、いつでも学習の機会を保障した。コロナ禍による支援室の閉鎖時期も、受験生を中心に学習を継続できた。いじめで不登校になっている子ども学習に自信が付き、登校できるようになった子もいる。
- ◆「個別家庭への支援や食料配布を通じた見守り強化の「訪問支援」
実施場所: てらこや無償塾・子どもの各家庭
対象者: 訪問支援が必要な家庭60世帯180人以上
参加人数・回数: 年間で279回(本助成金は32回で使い切った)。
スタッフ12人(本助成金では1人分半年で使い切った)
毎月の食糧持参の家庭訪問、学校からの依頼によって不登校児の見守りや、警察に保護された子どもたちの受けとり、火事やDVで逃げた母子家庭の生活再建など、多種のアウトリーチを行った。
- ◆「電話個別相談」事業で365日24時間対応を保障。
実施場所: 若岡の公開電話 対象者: 誰でも相談したい人
参加人数・回数: 年間で578件161時間1040人
(本助成金は半年分254件471人69時間で使い切った)
この10年間、年中24時間対応で、深夜の子どもの自殺念慮や家出などにも、無償のボランティアで行ってきた。今回、本助成金で初めて可視化すべく記録を取った結果、161時間という膨大な時間を、ボランティアの相談事業として使っていたことが判明した。

事業の成果

公的保障が一切なく、団体持ち出し(無償ボランティア)で行っていた上記の事業の全てが必要がある事業で、想定以上に多く、当初の予算を半年で使い切った。特に、オンラインの個別支援は、「学習支援室」に来ることができない子ども達に大変な効果があった。更に、SOS電話相談事業は「死にたい」「これから自殺する」「助けて」等、緊急の事案なども大変多く、命のセーフティーネットの大事さを痛感した。ただ、非常に精神的・体力的・時間的にも膨大な労力を費やすので、どこでも誰でもできることではないと感じた。

参加者・対象者の様子

子どもの声としては「夜に家にいても勉強ができるので、本当に助かる」「先生の教え方がすごくわかりやすい」「落ち着いて勉強できる」「英語が苦手だけど、分かるようになった」「学校に行っても分からないところが、よくわかった」など。(コロナ禍に配慮したオンライン個別学習支援)

寄付者へのメッセージ

助成金のお陰で、訪問支援もオンライン個別学習支援もSOS電話相談も、経費の心配なくできました。困難な状況に置かれている子どもたちやその保護者は、一人一人家庭の状況が異なるため、学習支援室で待っているだけでは十分な支援が届かず、アウトリーチで訪問したり、個別の相談に乗ったりすることが大変重要です。こうしたことへの保証がない中で、団体として取り組むことができ、大変感謝です。ありがとうございました。



③NPO法人こぎつねくんわーど (恵那市)

助成事業名 子育てのアレコレなんでも話せる居場所づくり事業

助成額 183,000円(総事業費295,137円)

実施内容

- 孤独を抱える、子育て家庭の安心安全な居場所作り、子育て相談(未就園児を持つ親子支援・不登校児童生徒親子の居場所作り・発達障がいを持つ親子居場所作り)
- 事業実施場所: 恵那市岩村町富田会館
- 対象者: 未就園児を持つ親子(0歳から2歳児を持つ親子)
- イベント内容: 子育て相談、絵本読み聞かせ、おしゃべりサロン、ぎふ木育広場「野草de散歩」、ママの為のリラックス整体、写真・カメラの相談日、フラワーアレンジメント、英語で遊ぼう など

参加者・対象者の様子

「楽しいイベントを企画してくださり有難いです。近所に同じ年頃の子どもがいないので、ここに来るのが楽しいです。」「お友達といっばい遊べてよかったし、お母さんたちと楽しく会話できたのがよかった。」

寄付者へのメッセージ

育児は助け合って子育てしていくものなのに、それができない世の中です。それには、訴えていく力が必要です。根気と熱意が必要です。笑いあって子育てできる時代と一緒に作っていきましょう!

事業の成果

- 保育園へ入所する前の一番大事な時期(言い換えると一番お母さんたちが大変な時)と一緒に育児を楽しく、なんでも相談できる仲間作りをしていきたい。そんな居場所を作っていきたいと考えていたが、コロナ禍で集客数は減少していたがそれでも遠くから、遊びにきてくださる利用者さんがみえた。
- コロナ禍で居場所がなく、孤立し、交流できずに悶々とした毎日を送ってきたお母さん達のために、目標のなんでも話せる居場所づくりを継続した。子育て相談を望まれる利用者さんがみえたので、遠山信子先生が絵本読み聞かせと子育て相談をしたところ、非常に評判がよく、来年度も続けたい。恵那市は環境が恵まれ、人口も丁度よい、お互いの顔がわかる、子育てしやすい地域なので、可能性を探りたい。



④ふしみこども食堂 (御嵩町)

助成事業名 「食」を通して地域の居場所づくり活動

助成額 210,000円(総事業費512,956円)

実施内容

「食」を通して食べること、生きることの大切さを学ぶことを目的とした月1回のこども食堂の活動を通して地域住民との繋がりを大切にしながらこどもや地域住民が安心、安全に過ごすことの出来る居場所づくり活動を推進した。「ゆずりは(活動拠点)」には誰でも来ていいよ。と言うお家(居場所)をこども食堂開催日以外も可能な限り開放することで、様々な人々が集まってくるきっかけ作りにもなり、小中学校の様子、その家庭の様子、行政との関わりなど色々な情報を得ることができた。今年はシングル家庭と繋がりも強化し、食材支援などの機会を多く作った。

◆こども食堂(毎月第3金曜)

場所:「ゆずりは」/回数:全12回開催/人数:80~90食を毎月提供。こども:35人、大人:45人(月平均)

テイクアウト方式で夕食提供を実施した。孤立しがちな家庭など、家庭環境の事情で来れない方には届けて顔のみえる活動も意識してきた。

◆寄り添い活動(毎週金曜日、必要に応じて。月平均8日開催)

場所:「ゆずりは」/回数:90回/人数:毎回2~5人/支援方法:困りごと相談、食材提供(寄付、こども食堂で残った食材等)

・主にひとり親家庭のこどもと保護者との関わりを持ち、学校や家庭の様子を聞きながら困りごとや心配事について相談にのるなど孤立しないよう心掛け、寄り添ってきた。その中で私たちができる事の一つとして、食材提供と関係機関につなげる役割をした。相談内容によっては、学校の先生、地域の民生委員、行政などとも協議し必要な対応が出来るよう情報共有ができた。

・月に1回、保護者に伴い学校面談に同席しこども支援と保護者のサポートに努めた。地域の課題は地域で解決していき、子ども達が地域社会の中で心豊かに健やかに育まれる活動を通して、子ども、その親の自立に繋がるサポート支援を地域住民が様々な形で関わりながら活動ができた。



事業の成果

- シングル家庭との繋がりを強化し、食材支援をしながら困りごと相談が出来た。
- コロナ禍という状況でしたが、中止することなくこども食堂やフードパントリーができた。
- 支援する側も横のつながりが強化され、関係機関との情報共有をすすめる機会が増えた。

参加者・対象者の様子

- 繋がりがかたも様々ではあるが、地域住民がもっと地域に関心を持つことで問題解決が出来るのではないかと感じた。(スタッフ)
- 孤立しがちの環境の中、地域の方が声をかけてくれたりこどもと遊んでくれたり、一緒に過ごしたり、ご飯を食べたりと日常的なことを一緒に過ごしてくれる方が身近にいるという安心感がうれしい。(参加者)
- そもそも誰に相談してよいか自体わからないことがある。そんな時に、話を聞いてくれる人がいることに感謝している。(参加者)

寄付者へのメッセージ

昨年度に続き、ぎふハチドリ基金を活用させていただきました。コロナ禍だからこそ「自分たちに何が出来る?」そんな一人一人の思いを大切にしながら活動しました。私たちだけの力だけでなくご支援してくださる方がいたからこそ活動を続けられたと思っています。私たち自身も色々な方々の支えがあってこそこのこども食堂という活動ができています。ありがとうございます。

⑤みんなの未来をつくる会 (大垣市)

助成事業名 特性の強い子どもそうでない子ども混ざり合う子どもと大人の居場所事業

助成額 278,159円(総事業費278,159円)



実施内容

●「異年齢、多様な個性が混ざり合う居場所」、「学びバ遊びバ@やすい」
●対象者：小学生・中学生・高校生・子どもと関わりたい大人
子どもたちの遊び場、学習する場を提供する。異年齢で関われる機会と孤立を防ぐ、ストレス低減に繋がる場にする。誰もが丸ごと受け止められる場づくりを心がける場とする。

●実施日、内容

○4/14スタッフミーティング ○4/21居場所 ○5/19相談会、居場所
○6/9居場所 ○6/16相談会、居場所 ○7/14居場所
○7/30居場所、講演会「発達障がい、不登校と学校教育」の振り返り会
○8/2自分のオリジナルキャラクターを描こう！、居場所
○9/12相談会、居場所 ○9/24居場所 ○10/10居場所
○10/31居場所 ○11/14居場所 ○11/28相談会、居場所
○12/8居場所 ○12/25マイ箸づくりワークショップ、居場所
○1/9居場所 ○1/19相談会、居場所 ○2/9居場所、学習支援
○2/16相談会、居場所、学習支援 ○3/13相談会、居場所、学習支援
○3/27居場所



事業の成果

平日の居場所を月2回開催できた。夏季休業中は、大学生ボランティア募集をした結果、3人の大学生ボランティアが参加してくれ、子どもたちの学習支援や遊びが充実した。また、17時から18時まで学習支援の時間として居場所を開催できた。

参加者・対象者の様子

子どもたちの声は、「自由に遊べて楽しい」「ここに来て、新しい友達ができる」「おやつ時間が楽しみ」などの声が多い。大きい子達は、自然と小さい子も参加しやすいような遊びを考えてしている様子も見られる。スタッフの声は、「ここにきて、子どもたちのかわいらしさを感じることができるようになった」「こういう子どもたちの居場所って、大人にとってもエネルギーをもらえていいね」などの声がある。学校の先生とのやり取りで悩みを抱えて相談会に来てくれたお母さんからは、話を聞いてもらって気持ちの整理ができましたとの感想をいただいた。

寄付者へのメッセージ

ご寄付をいただきありがとうございました。おかげさまで、月2回の平日の居場所とプロの講師による体験ワークショップを2回開催することができました。平日の居場所の認知が少しずつ広まり安井地区以外からもきてくれる子たちもいました。漫画のワークショップに関しては、中学生参加が4人もあったことが成果です。箸づくりの方は、3歳児から大人まで幅広い参加となりました。次年度も工夫を凝らして異年齢、多様な個性が混ざり合う居場所づくりをしていきたいです。

⑥NPO法人いちご (養老町)

助成事業名 養老のふれあい木育事業

助成額 157,030円(総事業費157,030円)

実施内容

●困窮家庭や父子母子家庭を優先に募り、気持ちも緩やかに過ごせる、居場所づくりをする。

◆森の広場

ようろう保育園(養老公園国定公園内に建立)の園庭で子どもの主体性を重んじた、「遊ぶ」(プレーパーク)を開催。ぎなんプレーパークさんの協力で遊びを自分で考え、「やってみよう」という子どもファーストの主体性を高めて子ども達中心の遊びを考えたい。(例)・木片等に釘等を打ち付け、自由にトントンカチカチする。・木の葉や葉っぱを集め、木片に自由に付けたりして、楽しい何かを親子で作る。・竹を切る楽しさ、竹を使っの制作を楽しむ。・昼食はカレーライスを提供。

◆木育教室

(例)・木のおもちゃを知り、触れ、遊ぶ。・養老の特選物(ひょうたん)を知り、触れ、使って作る作業。・今須杉の木片と自然物を使って自分の顔を作る。

●実施日時・実施場所

○5/5 10:00~14:00 養老公園内ようろう保育園と周辺
○6/2 10:00~11:30 第1回木育教室5組10人、上多度プラザ
○12/4 10:00~11:30 第2回木育教室8組16人、上多度プラザ
○1/13 10:00~11:30 第3回木育教室4組8人、上多度プラザ
各講座、一人親優先、小学生以下のお子さんと保護者(家族)



事業の成果

●養老町内の木育関係従事者が活動に賛同してくださった。
●講師の皆さんに、「困窮家庭やひとり親家庭の方に対して、今後このような講座を開催したい」と言っていただいた。
●養老公園内でのイベントの協力依頼や開催の働きかけが困難であるかと思っていたが、チラシ等の配布をして頂けてよかった。
●行政とも、上手く協働活動ができて、成功した。

参加者・対象者の様子

特に一人親家庭を優先にして、募集した。参加者からは、休日に、金銭的に心配のない遊びができて良かったとの感想をいただいた。

寄付者へのメッセージ

毎年、お世話になりありがとうございます。申込しやすい内容の助成内容に有りがたさを感じます。

令和5年度も木育教室を「もくいくようろう」と名称を変更し、スタッフが講師となって開催します。

これからもよろしく願います。



⑦地域たすけあいの会 (美濃加茂市)

助成事業名 子育て家庭への相談支援・居場所づくり事業

助成額 313,180円(総事業費318,913円)

実施内容

- 子育て家庭のこどもとその親が安心して暮らせる、心の居場所となることを目的として行った。
- 性別、国籍、年齢など問わず、子育て家庭は誰でも参加可能とした。実施日時が4月2日～3月26日の間に、毎週土曜日14時～15時30分、毎週日曜日16時～17時30分の合計104回行った。参加者はのべ人数693人、実人数は84人であった。
- 保育士経験のあるスタッフを配置し、育児や生活の相談に応じた。物資の支援が必要な家庭には、寄付で集まった食料品や生活用品、子育て応援グッズ(おむつやミルク)のセットを支援した。
- 毎週土曜日の11時30分～14時にこども食堂を開催していることから、こども食堂に来られた子育て家庭の方が、そのあとに引き続き本事業に参加し、相談できるようにした。
- キッズスペースを作りこどもたちがそこで遊べるようにした。そうすることで親が安心して相談でき、こどもたちが交流できる場にもなった。キッズスペースは安全のためのサークルとマットを用意し、必ずボランティアスタッフが見守り、ケガなどの事故が起こらないように配慮した。

参加者・対象者の様子

参加者からは以下のような声をいただいた。「他の同世代のお母さんとお話ができよかった。いろんな情報を共有したり、こどもの話ができた。」「食材やおむつがもらえて生活が本当に助かった。」「母子家庭なので、いつもこどもの面倒を見ないといけないので休めるときがなかった。ここに来ればこどもを遊ばせられるし、自分が落ち着ける。」「親身になって話を聞いてもらえるので、ありがたい。」「毎週開催してくれるのでありがたい。」「こどもが楽しそうに遊んでいるので嬉しい。」「こどもも私も友達ができました。」「これからも続けてほしいです。」



事業の成果

- 子育て家庭が安心して来られる居場所を作ることができ、参加者同士が交流できた。地域で孤立しがちな方も、他地域の方とも交流ができた。
- 保育士、子育て経験者を相談員に配置したことで、相談者に寄り添って相談を受けることができた。相談内容は、家庭内の問題、こどものこと、親自身のこと等さまざまであった。
- 食料品や子育て応援グッズを支援できたので、子育て家庭を経済的に助けることができた。
- キッズスペースを設置したので、親さんが安心して相談やお話しができた。また、キッズスペースで使用するおもちゃの寄付が集まった。

寄付者へのメッセージ

物価高騰や円安により経済が不安定になっている中、市民生活も先行きが不安になっています。そんな気持ちを和らげたり、解消してほしいという思いで子育て家庭を支援する本事業を行いました。たくさんの方に参加していただき、支援することができました。こうした事業を行えるのは寄付していただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございます。今後も子育て家庭を支援する事業を行っていきたくと思っています。これからも温かいご支援をよろしくお願いいたします。



⑧横屋のえんがわプロジェクト (瑞穂市)

助成事業名 よこやのまなびば こども食堂事業

助成額 200,000円(総事業費205,153円)

実施内容

- 孤食、個食になりがちな環境にある子どもたちと一緒にご飯づくりをする。防災を意識した食事の調理を通して、学ぶ場所をつくる。こども食堂に携わることで、地域に住むこどもたちを見守りたい大人と繋がる。
- ◆よこやのまなびば はるやすみ
居場所、子ども食堂、フードパントリー、学習支援
横屋公民館 4/4 46人(子ども31人 大人15人)
- ◆よこやのまなびば なつやすみ
居場所、子ども食堂、フードパントリー、学習支援
横屋公民館 7/29 47人(子ども35人、大人12人)
横屋公民館 8/8 59人(子ども39人、大人20人)
横屋公民館 8/26 59人(子ども38人、大人21人)
- ◆よこやのまなびば ふゆやすみ
居場所、フードパントリー、学習支援、子ども食堂(テイクアウト)
横屋公民館 12/27 56人(子ども31人、大人25人)
横屋公民館 1/6 諸事情により受付なし
- ◆よこやのまなびば はるやすみ
居場所、子ども食堂、フードパントリー、学習支援
横屋公民館 3/28 57人(子ども41人、大人16人)
- ◆チラシ配布
なつやすみ号 小学校、地区回覧板、社協
ふゆやすみ号 小学校、地区回覧板、社協
はるやすみ号 小学校、地区回覧板、社協30枚、図書館等



事業の成果

子どもたちが安心して遊ぶこと。遊びながら食事を用意すること。普段の生活ではできない異年齢での関わりをすることで、その子らしさや、好きなこと、得意なことにじっくり取り組めたと感じます。地域住民へのアプローチをすることで、折り紙名人のおばあちゃんが足を運んでくださいました。関わりの中で、子どもを見守る目を増やすことができたと思います。

参加者・対象者の様子

「子どものために美味しいごはんをつくる(子どもたちと一緒に)その場が温かった」「大人と関わりたいという子どもが一定数いることがわかりました。家では忙しい両親や先生に話を聞いてもらうことや遊んでもらうことが少ないから、こういった場が必要なんですね。」「子どもたちにお留守番をさせて仕事に行くので、ごはんまで食べさせてもらえて本当に助かります。」「子どもたちが楽しみにしてるからありがたいです。」「ごはん、パントリー助かります。」「いつもきてる。ごはん美味しいし、すっごく楽しい!(子ども)」回を重ねるごとに、地域の小さいお子さんを持つママさんが増えてきました。

寄付者へのメッセージ

多額のご寄付をいただきありがとうございました。また、地域の企業様に応援をいただくことで、子どもたちの未来は明るく創造していけることを感じました。子どもたちのためにできることを考え、チャレンジさせていただくことで、地域の方々がたくさんのお支援をいただきました。社会が繋がって、子どもたちを支えられる仕組みに感謝いたします。

⑨ NPO法人コミュニティサポートスクエア（岐阜市）

助成事業名 公共施設との連携によるユースセンター構築

助成額 337,500円(総事業費337,846円)

実施内容

家庭や仕事場、地域に自分が安心して過ごせる場が少ないと感じていたり、他者との関係構築に悩んだりしている孤立しがちな若者に対し、公共施設である岐阜市中央青少年会館に、他の都道府県に存在する「ユースセンター」という機能を有するための実践を当法人と連携して積み上げていくことを目指して、年間を通じて居場所作りを実施した。

●実施場所…岐阜市中央青少年会館

①ミニキッチン…軽食を調理して食べたり、ゲームや談話をして楽しむ、核となる部屋となった。

②会議室…時折、作業室として活用。アクセサリ作り、被災した写真の洗浄など。

③和室…仲の良い者同士が座り込んで談話したりゲームしたり横になったりして過ごした。

④若者チャレンジ室…参加者との個別懇談、個人的な学習での利用。

⑤ホール…楽器演奏、バンド演奏の部屋として毎回必ず活用。

●開設日と人数…毎回17時～20時30分の開設

計27回、延べ434人の参加となった。

寄付者へのメッセージ

皆様のご寄付によって、孤立しがちな立場にいる人達に対するつながりの維持が達成できています。ご寄付いただいた皆様の思いを、居場所を必要とする人達の「支え、安らぎ、感謝、笑顔、希望、未来」につなげてまいります。ありがとうございます。



事業の成果

①この場所を拠り所とする人が10人前後確定的に存在するようになった。
②公共施設の全面協力を得て施設内の部屋を相当数確保できたことで、1部屋だけでは制限が出てくる過ごし方に対し大幅に自由度が増し、主催者が参加者に対して過ごし方の注意をする場面が少なくなり、参加者の心理的安心が維持できたと感じる。

③夜の時間帯に、参加者が費用負担することなく過ごす場所をほぼ週1回の頻度で提供する取り組みが、先駆的なものとして岐阜市役所福祉政策課、岐阜市社会福祉協議会、岐阜市保健所、エールぎふ、岐阜市議会議員の視察を受けた。

④岐阜市中央青少年会館に、勉強やサークル活動以外で継続的に利用する高校生を5名程度ではあるが呼び込むことができた。

参加者・対象者の様子

自宅が火災に遭うなど厳しい生活を強いられていた方が、週1回のこの場での食事や食品の配布はわずかではあるが支えとなり、他の参加者との交流も増え、息抜きとなっていた。20代前半の男性は、この事業開始の半年ほど前に当法人と繋がり、当初は不安気な様子や言葉の出ない状態だったのが、この場での40～50代参加者との交流やゲームなどで気持ちが徐々にほぐれ、談笑も楽しんだり、開設日以外に彼らとカラオケに行くなど、良いつながりが生まれた。70代祖父はその変化に安堵し、参加の際には軽食の給仕を率先してくれる準スタッフのような関わりをしてきている。

⑩ NPO法人風の時代の学校（高山市）

助成事業名 オルタナティブスクール事業の認知を広めるための広報活動

助成額 109,977円(総事業費109,977円)

実施内容

●「そら風スクール」は、不登校になっても、その子にあった学びの場を作ることで、学びに向かう力を取り戻し、自己肯定感を育み、安心して過ごすための活動拠点である。この広報活動を行う。

◆教材の印刷

教材プリントやオンライン教材を印刷し、学習活動に使用

◆パンフレット印刷

配布先…企業や子育て支援施設／市内小・中学校／高山地域の教育関係者／イベント来場者／賛助会員募集

◆チラシ印刷

主催するイベント(5月座談会、2月講演会・説明会、毎月開催の大人向けイベント)の告知チラシを印刷した。

◆活動内容をお知らせする会報(そら風のあしあと)の発行
賛助会員の方への郵送やイベント、相談時などに随時配付。

◆毎月の保護者向け通信の発行

月予定や学校の活動の様子等を保護者向けに印刷配付。

◆賛助会員募集・申込用紙の印刷

活動紹介時に、賛助会員の募集案内や申込用紙を印刷し配付。

◆掲示物、ポストカード用の写真印刷

チャリティ絵画展、座談会、市役所にて、パネル掲示を作成。チャリティ絵画展とわくわくマルシェでポストカードを印刷。

参加者・対象者の様子

「高山市にも「そら風スクール」のような子どもたちの居場所があることが分かった」「オンライン教材を印刷し、各自の学習進度に合わせて提供することができ、学習面の支援に役立った」「そら風スクール」の素晴らしい活動を様々な形で応援したい」



事業の成果

学習のプリントの全体量が見えることで、スクール生の学習意欲が以前より高まり、学習に取り組む時間が増えた。賛助会員個人29名、団体4件増えた。座談会に参加した際、会報により普段の活動をより理解していただくことができた。写真を使った掲示物で活動の様子が伝わった。定期的な相談があり、スクール生も増加した。

寄付者へのメッセージ

不登校の児童生徒の学びの場、及びそうしたお子さんを抱えて悩み苦しんでいる保護者への支援活動を行い、保護者の方々からは次のような声をいただいています。

「学校に行けなくてつらい時期に、ありのままでもいい、どんな自分でもいい、という温かな場で過ごさせてもらい、少しずつ子どもも私も満たされてきました。」「やってみたいことにチャレンジしてみる、失敗も間違いもない、自分がどうしたいかに向き合っただけで様々な体験をさせてもらうことで、自己肯定感が高まり自信を持てるようになってきました。」「家族で笑える時間が増えました。」「

私どもも、活動を多くの方々に知っていただくこうと様々な施策を講じております。しかし、活動資金については公的な資金援助がなく、授業料も保護者の負担を考慮し、全国のフリースクールの最低額としているため、活動の継続が危うい状況です。自己資金を貸付する形で運営している状況であり、事業継続のことも頭を悩ませ、正直なところとても苦しいしております。当スクールへの期待や需要があるため、できるかぎり存続し苦しんでいる方々への支援を継続していきたいです。今年度は印刷事業への財政的支援をいただき誠に感謝申し上げます。

【A-2】ステップアップ助成 全2件 合計 400,000円

①NPO法人つなぐわ (大垣市)

助成事業名 大垣市を中心とした「子どもの居場所」実施団体相互の交流と行政機関との懇談事業

助成額 100,000円(総事業費100,021円)

実施内容

◆「子どもの居場所」交流会の開催(8回)

参加者:和っと広場、みんなの未来をつくる会、わが子の成長を見守る会、北地区子ども食堂「よっといで!」、さなぎの杜、あしたの支援室

内容:「現状報告・交流」「市役所懇談内容検討」「子ども食堂への予算から、居場所に対する補助へ」「サラダコスモからのもやし提供運搬について」「フェイスブック「つなぐわ」開設」「DA-N-RO大垣について」「助成金申請について」「今後の市役所との懇談の進め方(アンケートの実施を基に懇談をする)」「支援品の仕分けとホームページの作成について」など

◆周知のための広報

Facebookができて広報しやすくなった。大垣市役所市民活動推進課により広報資料ができ、スイトピアセンターや地域の小中学校に配布した。

◆現状を踏まえて行政機関との懇談(4回)

- ①6/28 「これまでの活動から見えてきた大垣市の子ども達の現状についての懇談」
- ②9/29 「夏休みの居場所の様子から」
- ③1/16 「副市長との懇談/新教育長への挨拶」
- ④3/6 「副市長との懇談」「各課との懇談ができない状況について」



事業の成果

●NPO法人「つなぐわ」の連携団体が6団体となった。フードバンクや企業からの支援品をシェアすることができるようになってきた。また、NPO法人「つなぐわ」として支援品の受け入れができるようになってきている。特に、JA西美濃農業協同組合とサラダコスモ養老工場からは、月に一回の食糧支援品が届く。

●Facebookができ、情報発信できるようになった。

●市役所市民活動推進課により各団体をまとめたチラシができた。

参加者・対象者の様子

NPO法人「つなぐわ」参加団体に来ている、子どもたちに聞いてみた。居場所に来てよかったことは?「友達と遊べて楽しい」「食べ物(昼ごはん・お弁当・おやつなど)がある」「生活の中で楽しみなことが増えた」「新しい友達ができ」「好きなことができる」「気軽に話せる大人が増えた」「学習が分かるようになった」「学習時間が増えた」「まっとできる時間が増えた」「毎週やっているから楽しい」「温かい場所だと感じる」など。

寄付者へのメッセージ

基金を使わせていただくことで、発足したばかりのNPO法人「つなぐわ」としての活動を、少しずつ進めることができました。大垣市が、子育てに力を入れるようになるために、子ども達の現状を知らせていきたいと思っております。ありがとうございます。

②一般社団法人セカンドベース東濃 (恵那市)

助成事業名 地域でつながる居場所づくり事業

助成額 300,000円(総事業費304,016円)

実施内容

◆地域での困りごとの情報収集、実態調査

恵那市社会福祉課、恵那市社会福祉協議会地域福祉課等へアプローチを行い、事業の趣旨、目的を説明し協力体制・協働への依頼を行った。恵那市においても重層的支援を今年度から目指しており、協力的な意見をいただけた。恵那市は広域であり、地域によっては習慣や文化等が異なっている。地域の振興事務所等を中心に事業の周知、理解協力の依頼の広報活動を行った。また同時に、不定期だが居場所を各地区において開催し、地域の方や対象者の意見を聞けるよう行った。子ども支援課や高齢者の居宅介護支援事業所、障がい者支援事業所等も訪問し、情報収集や事業の周知活動を行った。

◆居場所開設

恵那市えなえーる、恵那文化センター、恵那市エコプラザ、岩村コミュニティセンター、中津川市中央公民館、中津川市阿木公民館など

◆参加者

5名(平均2~3回参加)

30代~60代(男性4名、女性1名)

開催回数 18回



事業の成果

●周知活動、情報収集の活動を通して行政及び関係機関との関係構築ができた。

●事業の目的と恵那市における重層的支援での共通事項の理解ができてきた。

●恵那市における地域の特性や生活習慣等の違いが理解できてきた。

●ひきこもり、困窮者だけの居場所だけでなく複合的な居場所開設の必要が急務である。

参加者・対象者の様子

居場所における利用者は平均2~3回の利用があった。障がい者手帳の取得者や仕事における人間関係が理由でのひきこもり、ジェンダー問題を抱えた方、また、高齢の親の介護についての悩みなどがあった。全般に現状ではすぐに困窮しているわけではなく、生活や心の問題を抱えている。8050問題の方もあったが、将来どうなるかをまだ認識できないなど様々な意見がうかがえた。傾聴を主に必要な支援体制を関係機関と構築していく必要を感じた。

寄付者へのメッセージ

社会的包摂事業などに理解をいただき、大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

【B】利用者負担軽減助成 全3件 合計 322,500円

①一般社団法人ぎふ学習支援ネットワーク（岐阜市）

助成事業名 各学習支援室へ通う生活困窮世帯への交通費支援事業

助成額 62,200円

実施内容

「学習支援室」に通う児童・生徒は、ほとんどが、生活保護世帯、就学援助世帯、ひとり親世帯などの経済的に困窮している世帯や、何の公的支援もない東日本大震災の自主避難者である。無料の学習支援室であっても、交通費が負担になり参加を渋り、勉強したくても来ることができない子もいる。「学習支援室」へ通うための交通費を、家庭の困窮度に合わせて補助する。児童・生徒が、バスや電車などの公共交通機関で通う場合は全額補助。保護者の送迎の場合は、市外からなど遠方を優先的に家庭の困窮度に合わせて、ガソリン代を半額補助する。

寄付者へのメッセージ

生活困窮世帯の子ども達は、家庭での学習環境が整っていない場合が多く、小学校時代から勉強が理解できない等、低学力の子ども達を貧困の連鎖から抜け出させるには、子ども自身が学力をつけ、自分で生きていく力を身に付け、社会自立させていくという長い支援が必要になります。「交通費助成」で子どもも家庭も安心して無料塾に通えるようになり、勉強に取り組むことができます。貧困の連鎖から抜け出させる第一歩です。ご寄付下さる皆様のおかげで、子ども達がお金の心配なく学習できるようにになります。ありがとうございます。



事業の成果

無料の学習支援室は各地にあるが、そこへ行く交通費の自費負担があることは、子どもが参加するにあたって大きな阻害要因となっていた。本助成金を利用して交通費を支給することにより、子どもも保護者もお金の心配がなくなり、安心して通えるようになった。その結果、塾への参加日数が増え、毎週きちんと通えるようになった子ども達が多かった。毎週通えるようになると、精神的にも学力的にも安定して、学習意欲や学力の向上が見られた。交通費支給で学習支援事業を後押しし、正のスパイラルができてきた。これが私たちが望んでいる「困難な環境の中でも自分の夢に向かって頑張って勉強し、貧困の連鎖から抜ける」という学習支援事業の願いの実現である。この利用者軽減事業は、「子どもや家庭がお金の心配なく塾に通える」環境整備に非常に効果があると感じている。

②NPO法人ふる里めいほう（郡上市）

助成事業名 放課後児童クラブ ひとり親家庭児童の利用料軽減

助成額 60,300円

実施内容

学童保育利用者のうち、母子家庭の利用料を軽減した。

寄付者へのメッセージ

NPO法人として放課後児童クラブを運営しております。安定的かつ継続的な運営をしていくために当事業は規模の小さな当法人にとって大きな助けとなります。今後も継続的なご支援をよろしくお願いいたします。



事業の成果

母子家庭の兄弟に対する放課後児童クラブの利用料を軽減して頂いた。兄は年間174回、弟は186回児童クラブを利用された。地域に住む放課後児童支援員が放課後の子どもの安全を見守ることで、保護者が安心して働ける環境づくりに寄与することができた。また、今年度は山里の郡上市明宝でもコロナ感染者が急増し、小学校の休校で仕事を休まざるを得ない日が増加し、経済的かつ精神的に不安の大きな1年だったが、当事業のおかげで保護者の負担が軽減され、母子共に安心した生活を送ることができた。

③NPO法人飛騨高山わらべうたの会（高山市）

助成事業名 ファミリーサポート、びい・ぼおサポート事業(ひとり親家庭等の利用者負担軽減)

助成額 200,000円

実施内容

高山市ファミリーサポート事業、当法人が自費で開始した託児支援サービス(びい・ぼおサポート)の利用者のうち、ひとり親家庭、経済的に困窮している家庭の利用料を軽減した。

寄付者へのメッセージ

助成いただき、生活困窮家庭、ひとり親家庭に対する託児料金の利用者減免を実施することができました。コロナの影響で学童や預かり保育の受入れ縮小があり、やむを得ずファミリーサポートにお子さんを預けてお仕事に行かれる保護者の方々から「利用料の減免は本当にありがたい」と感謝の言葉を沢山いただきました。誠にありがとうございました。



事業の成果

本来なら保育園や学童の利用ができるはずが、コロナの影響で一時間閉鎖や土日保育受入れの縮小があり、やむを得ずファミリーサポートを利用する保護者さんが多い一年だった。ファミリーサポートにお子さんを預けると平日昼間でも1時間に500円、土日で600円の利用料が必要ですが、当時の最低賃金880円と比較しても働く意味がないと悩まれる保護者さんが沢山いる。まして、預けるお子さんが2人、3人と増えれば時給を超える金額を支払って仕事に行くこととなり、依頼会員さんに経済的負担が重くのしかかる事態となっていた。今回、利用料の減免により負担を感じずに子どもを預けることができ「安心して仕事に行くことができます。」と感謝のお言葉を沢山いただいた。

【C-1】東海ろうきん未来応援基金「物品購入助成」全4件 合計259,101円

①NPO法人らいふくらうど (山県市)

助成事業名 「スヌーズレン」活動を行い重い障がいのある子どもの心身の安定を図るための事業
(スヌーズレン用機材一式)

助成額 41,506円

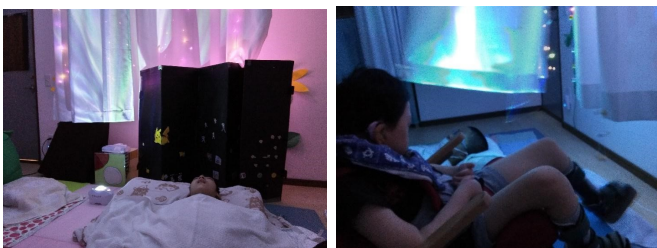
実施内容

●重い障がいのある子ども達はいつも誰かに介助、見守りなどをされている状態で、一人でいる時間がなく、緊張感が強い状態が続いている。スヌーズレンで心身をリラックスできる時間を、放課後等デイサービスで提供した。

2022年4月～2023年3月 合計12回北地区センターで開催した。

冠寄付者(東海ろうきん)へのメッセージ

事業所としてはなかなか思い切った備品への投資が出来ないので今回の助成金でスヌーズレングッズを揃えることが出来て子ども達の活動が広がったことに本当に感謝申し上げます。当事業所での成果を他の事業所にも伝えていける機会をつくっていきたくと考えています。



事業の成果

●カーテンとカーテンレールでスヌーズレンを行う場所を囲うことによって重度の障害のある子ども達もスヌーズレンを行うことが分かりやすく、見通しを持ってスヌーズレンを行うことが出来て、備品購入をして環境設定する前よりもリラックスすることができるようになった。

●8月の夏休み中は昼ごはん後のリラックスタイムとしてスヌーズレンを継続的に行った。食べることにエネルギーを使う重度の障害のある子ども達はごはん後にゆっくりとリラックスする時間を取ることで、午後からの活動も精力的に行うことができた。

●スタッフで購入した本を読んでミーティングでも意見を出し合いながら、どのようにしたら子ども達がより匂いや光を意識してもらえるかということを検討してスヌーズレンを行うことができた。

●寒い季節はなかなか散歩などに出かけることが難しい重度の障害のある子ども達には匂いと季節を感じられるように、紅葉、温泉、クリスマス、雪、かまくら、暖炉、さらにホットパックをつけて温かさを加えたり、花見の雰囲気を感じられるようにカーテンにピンクの光を映しながら桜色の紙吹雪を舞わせて、夜桜のような素敵な空間づくりができた。

●少し興奮を抑えるのが苦手な子どもが夏休みにスヌーズレンを行うことで、初めて事業所で昼寝することができた。保護者の方も家以外の場所で昼寝するのが初めてとビックリされていた。

●事業所としては、これまでも色々工夫してスヌーズレンを行ってききましたが、物品を揃えることでスタッフ同士でアイデアを出しながら、スヌーズレンをより良くしていこうという意識が芽生えた。

②NPO法人美濃加茂国際交流協会 (美濃加茂市)

助成事業名 外国籍の子ども達のための不要学用品リサイクル活動
(リサイクル品保管庫用備品一式)

助成額 65,000円

実施内容

●美濃加茂市には、多くの外国籍住民が住んでおり、学校へ通う子どもたちが多い。不要になった制服や学用品を寄付していただき、外国籍の子どもたちや、経済的に困難な方へ貸出、再利用する事業を行っている。

●以前の実態・課題

貸与リサイクル学用品の保管する棚などが足りていない。また、電気もなく、使っていたハンガーラックも老朽化して壊れてしまっている。床に山積みになざるを得なくなり、出し入れや、状態やサイズの管理が困難な状態だった。

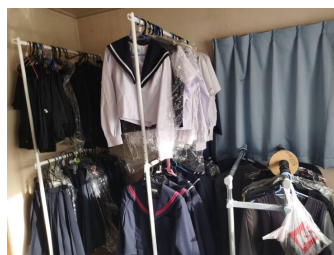
●今回の実施内容

倉庫全体の不用品処理、ハンガーラックや棚、ケースの購入
センサー付き照明購入、学用品のサイズ、学校別に整理整頓

↓
通年、随時希望者へ希望の学用品をスムーズに貸与できる

冠寄付者(東海ろうきん)へのメッセージ

今回、ボランティア活動の一環として行ってきた外国籍児童生徒への学用品リサイクル事業がよりスムーズに行えるようになり、とても助かりました。ありがとうございました。



事業の成果

●ここ数年、回収して山積みになっていた学用品を、サイズや学校別に仕分けができ、整理整頓ができた。

●在庫の確認がしやすくなり、貸与の依頼があった時にスムーズに希望の物を探し出すことができ、貸し出しにかかる時間が短縮できるようになった。

●乾電池利用の照明ではあるが、照明を設置できたことによって、暗い時間帯も学用品倉庫で作業できるようになった。

③NPO法人スマイルBasket (岐阜市)

助成事業名 食料に思いを込めて、安全・安心におすそ分け！
(冷凍ストッカー)

助成額 61,380円

実施内容

●寄付いただいた余剰食品等を、安全に安心できる状況で配架するために、冷凍庫を常備することで、フードロスなくす。また、必要な人や、配達するサポーター等が無理なく配架できるようになる。

●自法人の事業(毎週火曜日と木曜日の学習支援)時に提供する、簡単な食事作成の折に、冷凍の材料を冷凍庫から出して使用している。常温保存しかできないときは、特に夏季など、食中毒等に気を使ったが、冷凍保存できることから安全・安心に利用でき、食糧を廃棄することもなく使い切ることができている。学習支援実施時は、勉強に参加する子から「今日は小夜食何?」「私焼きそば大好き」と声がかかる。場も和むし、サポーターと子どもの関係もフレンドリーになる。

冠寄付者(東海ろうきん)へのメッセージ

長年助成をしていただいて感謝です。



事業の成果

事業の成果は、夕方、勉強環境を整えても空腹であれば、落ち着かず、せっかくの時間も集中できない子が多い中、目の前で調理した安全で安心な小夜食を食べることで心が落ち着き「苦手だけれど少し勉強するかな・・・」という気になってくれたことである。

とはいえ、毎回食材を準備するのは本当に大変で、持ち出しと寄付いただいた食材だけでは偏る傾向は否めず苦勞していたが、選択肢が広がった。特に野菜は「調理」して提供することで、「案外おいしい」と野菜嫌いが解消された例が多い。大人の手が加わった食事は何物にも代えがたいと言える。課題としては、今後食材をどう賄うかである。本活動をアピールし、多くの支援者から食材の提供を得たいと考えている。2・3年前に比べたら寄付の回数も量も各段に多くなってきているのがうれしい限りである。

④よっといで! @北地区 (大垣市)

助成事業名 「よっといで! @北地区」こども食堂事業
(冷凍庫、調理器具類、テーブル、
インスタントパイザーシェード)

助成額 91,215円

実施内容

2022年4月～2023年3月合計12回北地区センターで開催。
毎月1回日曜日プレーパーク・フードパントリーを同時開催。
夏休み・平日の居場所(水曜日)に大垣市他の団体と共催で20回こども食堂開催。

合計32回開催。1回あたり平均120人参加
9:00 こども食堂ボランティアスタッフ集合・青年の家で調理開始
10:00 受付開始(プレーパーク参加無料・
こども食堂:大人300円・こども100円)

10:30 プレーパーク開催
11:30 こども食堂配膳開始
13:30 こども食堂終了 片付け・清掃など
14:30 プレーパーク終了・片付けなど
15:30 ふりかえり

冠寄付者(東海ろうきん)へのメッセージ

今回、ボランティア活動の一環として行ってきた外国籍児童生徒への学用品リサイクル事業がよりスムーズに行えるようになり、とても助かりました。ありがとうございました。



事業の成果

備品購入ができない助成金が多い中、事業のはじめに「東海ろうきん」物品購入助成に採択していただけてとても嬉しかったです。どの備品も活動に必要なもので、1年間フルに活用させていただきました。特に冷凍庫は冷凍の食材の寄付が多くあり、家庭用では対処できなかったのでせっかくの機会を無駄にせず活用させていただくことができました。本当にありがとうございます。この備品は今後の活動にも長年にもわたり使用できるものなので、大切に使用させていただきます。今後もこの事業を長く続け、こどもたちが安心して楽しめる居場所づくりができるよう頑張っていきます。ありがとうございました。

【C-2】こくみん共済coop・子ども成長基金「交流会開催助成」

全2件 合計 200,000円

①NPO法人ほっぺの会 (岐阜市)

助成事業名 親子でたのしくふれあおう！お遊び会事業

助成額 100,000円(総事業費209,543円)

実施内容

●幼児期の親子がほっとできる居場所や、母親同士の交流が求められている。そこで親子が楽しみ、子育ての不安や悩みを解消できる場を提供する。

●未就園児親子を対象に全10回の開催を予定したが、コロナ禍でふれあうことに躊躇される方が多く、4回の開催となった。

○6/21 親子ふれあい遊び「バランスボールエクササイズ&親子遊び」、製作「ぴよぴよカエル」、ママのおしゃべりタイム「夏におすすめの試食会・暑い夏の時短調理どうしてる？」

○9/15 親子ふれあい遊び「キッズタッチ&ふれあい遊び」、子育て情報交換会、製作「魚をつくって釣りに遊ぼう」

○2/13 親子ふれあい遊び「キッズタッチ&ふれあい遊び」、製作「ひなまつり工作遊び」、ママのおしゃべりタイム「ひなまつり行事食の講義」

○3/10

生の音楽と読み聞かせ、参加型人形劇、怒りのコントロールワークショップセミナー、コープぎふ「試食会」

参加者・対象者の様子

参加者の方からは、「お遊び会で作ったお雛様にシール貼りもして玄関に飾っています」との感想をいただいた。ママのおしゃべりタイムでは、「どうやったら時短で食事を作るか」「レンジを活用してます」等の家事の話や「お子さまの食に関する話」や「他県から来て知り合いのいない中での子育ての不安の話」もありましたが情報が共有することでママの安心の場づくりにもなった。



事業の成果

親子で一緒に身体を動かすことで、スキンシップができ親密性が高まり、より良い親子関係をはぐくむきっかけになった。製作物では、シールをはがして貼る、マジックで顔を描く、折り紙を貼る、紙を丸める等、見て・触って・考えて感情豊かな作品作りが親子でできた。ママたちが子育ての悩みなどどんなことでも安心して話せる場づくりができた。ママのおしゃべりタイムでは、「お子さまの食に関する話」や「他県から来て知り合いのいない中での子育ての不安の話」もあったが情報を共有することでママの安心の場づくりにもなった。

冠寄付者(こくみん共済coop岐阜推進本部)へのメッセージ

コロナ禍で育った6か月から3歳のお子さまたちと保護者に生の音楽と読み聞かせや参加型人形劇で五感を通して楽しんでいただけた。また、コープぎふ南支所様にもご協力いただき、試食会にて食の大切さを伝えることができました。また、岐阜県初「怒りのコントロールワークショップセミナー」も開催でき、お子さまと向き合い方も学ぶことができました。参加者の皆様には、安心して参加していただける場を提供することができありがとうございました。

②ひとり親Cheers (岐阜市)

助成事業名 ひとり親ピアサポート事業

助成額 100,000円(総事業費119,091円)

実施内容

シングルマザー、シングルファーザー、プレシングルマザー(離婚に向け別居中の実質ひとり親)を対象に「シングルマザー&ファーザーのホットサロン」と題した当事者同士の交流会開催を月1で開催した。事前に参加申し込みフォーム内で「当日取り上げて欲しい話題」を自由記述してもらい交流した。テーマは、①子どもの不登校・引きこもり、②子どもの発達障害やメンタルヘルス、③反抗期・思春期の子どもとの関わり方、④経済的な困りごと、⑤面会交流・養育費、⑥プレシングルマザーの方から離婚について、⑦自分の仕事や将来、などが上がった。

参加者・対象者の様子

「他の人の様々な経験談が聞けて、参考になる」「同じひとり親同士で話せてよかった」「話せたことで(解決はしないが)すっきりした」「同じように悩んでいる人がいるとわかり安心した、気持ちが楽になった」「大変なのは私だけじゃない！と気持ちを分かち合え、明日からまた頑張ろうと思った」「温かい雰囲気ですべて」「支援制度など具体的な情報が得られた」「子どもがボランティアに遊んでもらえて楽しかった」

冠寄付者(こくみん共済coop岐阜推進本部)へのメッセージ

この度このような助成をいただき、資金面で安心して事業を実施することが出来ました。なかなか交流会の開催そのものを目的とした事業に対する助成というものは少ないかと思っておりますので、貴重な助成金でした。心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



事業の成果

「シングルマザー&ファーザーの”ホット”サロン」が、社会的に孤立しがちなひとり親家庭の親にとって、安心感が得られる場として機能した事がアンケート結果からも明らかとなった。日々、仕事に育児に家事にと時間に追われ必死に頑張っているひとり親さんが、「ホット」とできる、そんな場所になった。実際に同じ立場・悩みを持つ者との対面や、また様々な悩みや気持ちなどを他者に話し、聞くことで「同じように悩んでいる人がいるんだ」「みんな頑張ってるんだ！私もまた頑張ろう！」「相談できる先があると思える安心感がある」と、孤立感が和らぎ、安心感が得られ、互いにエンパワメントしあえた側面もあった。また、参加回数を重ねていくたびに表情が徐々に明るくなっていき、段々と自分の離婚の経緯の詳細等を話す方も見受けられ、離婚による精神的ダメージからご自身のペースで少しずつ回復され以前よりも前向きになられたように感じた。ひとり親および実質的ひとり親の心の『拠りどころ』になれているように感じる。

【C-3】東海ろうきん未来応援寄付金「広域活動助成」

全3件 合計 3,000,000円

①NPO法人つむぎの森 (各務原市)

助成事業名 持続可能なセーフティネットをつくる事業

助成額 1,000,000円(総事業費1,173,841円)



実施内容

◆昼間の居場所

毎週土曜日10時～13時実施

対象者:子ども・若者とその親 親子5組、単身10人程度の参加
畑活動をベースに野菜を植え、収穫、調理をして食べたり持ち帰ったりした。母子家庭や、ひきこもり、障害のある子とその親の支援となり、一般的な解放的な活動に参加しづらいと感じている方々が定着した。

◆夜の居場所

毎週土曜日17時～20時実施

対象者:子ども若者 引きこもり経験者や、障害をもつ単身者、不登校や家庭に問題がある子ども 毎週8人～10人。

家庭の問題で悩んでいる人などが、夕食をともにしながら個別で話を聞いた。ともに食事をするこころを開いた関係ができあがった。

◆つながりマルシェ

毎月第2土曜日

趣旨に共感をされた来所者が出店し、多い時には10団体が参加した。11月には連携が生まれた「ぐりん・はあと」さんのポニーも来所、福祉事業所さんが参加され、シイタケのつかみ取りが好評となり、近所の方々が毎回楽しみに来られるようになった。人が混ざり合いながらつながることで、顔の見える支えあいの構図ができてきた。

◆市民が支える食糧支援

問い合わせや興味を持たれた人は多く、活動の計画を行っている。(チラシの作成はできた)

◆遊び場づくり

プレイパーク関係者が何人も視察に来られ、畑という場所で土や草花、虫と遊ぶことの楽しさを見つけて帰られた。イチゴがりや、桑イチゴつみ、菊芋宝探しなど、私たち独自の遊びでもいいということを感じた。

◆セーフティネットの防災訓練

テント倉庫の宿泊設備、簡易非常トイレの設置、炊き出し用の羽釜など避難所として利用できる設備が整った。マルシェの食事作りは実践そのものでもあり、自主的にマルシェや炊き出しができるようになった。

◆デリバリーカフェ

岩手県矢作市から市議会議員の方々が来られ、日頃の様子を体験していただいた。恵那市からは、児童福祉委員の方々が来られ、体験をしていただいた。今度は恵那に講演に呼ばれることになっている。ぐりんはあとさんとは、お互いの活動の特性を生かした交流をすることができた。

◆フードドライブの実施

シングルマザーとその子どもたちの会freelyさんとコラボをして、毎回20組の野菜の配布支援を行った。つむぎの森が野菜を集める窓口となり、つながる農家の方や、NPO団体の協力を得て、提供することができた。

このコラボの大きな成果は、母子家庭の方々とつながり協働した支援を重層的にできるようになった。



事業の成果

- フードパントリー野菜配布の仕組み
- マルシェの拡大
- 活動趣旨の共有
- 支援者のつながり強化
- 居場所の定着
- 地域社会への波及
- 生き心地のいい居場所ができた

冠寄付者(東海ろうきん) へのメッセージ

私たちの団体はこれまでも東海ろうきん様のご支援をいただき、ここまで活動を広げていくことができました。組織としては、かつて組織基盤強化助成を受け、組織が大きく変革を遂げ、物品の助成をいただいたことで、畑にキッチンができ、特徴的な支援ができる畑となりました。今回の事業でさらにその成果が明確となり当団体だけでなく、広く地域と連携した重層的な支援が可能になりました。このように当団体の活動を支えていただいていることに心より感謝しています。

これまでのご支援を持続発展できるように、今後とも精進をかさねていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



②NPO法人心をつなぐホースセラピーぐりん・はあと（本巣市）

助成事業名 生きづらさを感じている子どもやその親が居心地のよさを
感じられる体験・居場所・拠り所づくり事業

助成額 1,000,000円(総事業費1,074,497円)



実施内容

◆(1)子どもの体験・居場所・拠り所づくり支援

(1-1)集団での訪問・受入ホースセラピー体験による居場所・拠り所づくり
心地よさ、「できた！」という満足感により、日々の生活への意欲を上げるこ
とを目的として行った。園・学校・団体を対象に計17園校団体。(7市町村)

(1-2)社会的自立を促す社会体験による居場所・拠り所づくり

自然体験や社会体験を通して、環境や人に関わって働きかける機会を一
つでも多く積み、社会的自立力を育成するプログラムとして行った。

参加者：発達に課題のある子、HSC、適応不全等の生きづらさを抱えた子ど
もたち

①電車を使った自分たちで作る旅 ②公共交通機関を使った旅とキャンプ

(1-3)本人に対する個別の対応(活動・相談)による居場所・拠り所づくり

背景、必要感、困り感など個々の状況に応じて個別の一步踏み込んだ支援
を行った。

◆(2)親さんの居場所・拠り所づくり支援

(2-1)困り感を共有し安心感を生み出すおしゃべりカフェ&ミニ講演会によ る親さんの居場所・拠り所づくり

お互いに悩み事や困り事等の思いを出し合うことで「同じような思いでいる
人が他にもいる」という安心感を感じてもらい子育てへの活力に繋いだ。

(2-2)踏み込んだ支援での個別対応による親さんの居場所・拠り所づくり

背景、必要感、困り感など個々の状況に応じて個別の一步踏み込んだ支援
を行った。

◆(3)活動の質と組織力の向上

マニュアルを活用し、スタッフの意識レベルが向上させることができた。振り
返りや研修により、共通理解を図り、徹底することができた。乗馬指導スタッ
フ、活動ボランティア、馬の世話人会を増員でき、運営面での安定感が向上
した。特に訪問セラピーでは、4人~6人のスタッフで活動を行い、安心・安
全のもと実施ができた。

◆(4)広域性という点での実績

①参加する人の「居住地」が本巣市以外(参加者が広域ということ)

・5圏域の10市町にまたがった。

②実施する「場所」が本巣市以外(実施場所が広域ということ)

・3圏域の6市町にまたがった。

③他市町の他団体とコラボレーションをして活動を実施する

(活動の実施主体が広域になるということ)

④他市町の団体同士が、それぞれにもっていないリソースを交換しあう

(リソースが広がるということ)

⑤私たちのノウハウを他の団体に提供する

(その地でのノウハウ・サービスが広がるということ)

冠寄付者(東海ろうきん)へのメッセージ

令和3度には、東海ろうきん本店の助成をいただき、今年度は100万
円コースでのご支援をいただき、大変感謝しています。

「岐阜県内の市町村の区域を越えて実施する」「市町村の区域を越えた
幅広い地域に効果が及ぶ活動であること」という条件に、熟考して向き
合うことができました。「参加者が市町村の区域を越える」「実施場所が
市町村の区域を越える」ことに、リソースやノウハウを広めることにまで
言及できたことは、何より高額な助成のおかげです。

助成の「冠」にある「未来応援寄付金」にあるように、未来に向けた事
業を展開するための意欲に繋がる助成です。今後も未永く続けていた
だけと、「助けられる団体」がたくさん生まれ、草の根的な組織が岐阜
県各地に生まれ根付いていくと思います。これからも草の根的市民活
動への応援をよろしくお願いいたします。

事業の成果

●ホースセラピーに関する成果・変化

ループリック評価により活動に関わった大人の満足度を効果測定し
た。訪問先指導者や指導スタッフの評価も非常に高く、参画を楽し
みにしている。貢献したいという気持ちが強く、子どもの満足する
姿をみて、自分の行っていることに価値を感じている。

●社会的自立を促す社会体験による居場所・拠り所づくりに関する 成果・変化

・社会性の面で弱さや苦しさを感じている子どもたちが、自然体験
の中で参加者やスタッフと積極的にコミュニケーションを図る姿が
見られた。同時に、普段学校では不安定な情緒も、非常に安定して
いた。

・日頃は何かと大人の手助けが必要である子どもたちが、旅の途中
で、大人に頼ることなく自分たちで行動する姿が非常に多く見られ
た。子どもたちは「やればできる」という自信を持つことができ、そ
の後の家庭生活や学校生活が以前にも増して安定したという報告
を参加者のすべての保護者から聞いた。

●子どもや保護者の個別支援という点での成果・変化

おしゃべりカフェ&ミニ講演会では、お互いに悩み事や困り事等の
思いを出し合うことで「同じような思いでいる人が他にもいるん
だ！」という安心感を感じていただくことができた。子どもや親さん
の個別の相談や支援では、個々の背景(現状・実態・特性等)を踏ま
え、踏み込んだ手厚い支援により、困り感軽減や解決、新たな一歩、
子育てに向かう意欲、明日への活力に繋げることができた。不登校
であったが高校にした子、5年生まで不登校であった子が6年生か
ら登校し始め、卒業式にも出席し、小学校を卒業したこと等、目に見
える形での成果・変化もあった。

●広域性という面での成果・変化

・自分たちの団体にはない他団体のリソースを活用することで、活
動の多様性に繋がった。

・他市町の他団体のクライアントに支援の機会を提供することが
できた。

・目的が同じである団体同士が繋がることができ、それぞれの活動
に団体として参加できた。

・コラボレーションにより、互いに恩恵を受け合うことができ、個々
の活動の多様性や質が向上した。

・有効なノウハウを広げ、他地域の受益者によりよい支援に繋げる
ことができた。

・今年度からの試みであったが、リソースとノウハウを広げること
の一步を踏み出すことができた。



③NPO法人仕事工房ポポロ（岐阜市）

助成事業名 ひきこもる人とそれを支える家族の全県実態調査事業

助成額 1,000,000円(総事業費1,018,697円)

実施内容

ひきこもり問題について深い知見を持つ研究者(元当事者でもある)2名を招き、調査理念や調査設計・方法などについて協議し、アンケート調査とインタビュー調査の両面から実態を探ることとした。報告書を県内市町村ひきこもり支援担当課、社会福祉協議会、民間支援団体宛に郵送した。

◆アンケート調査

調査方法:郵送方式(アンケート用紙を郵送し、返送してもらう形式)
調査対象:ポポロの“風のたより”発送先および各地の家族会参加者
発送部数:112名/回答数:64通(回収率57%)
調査時期:11月発送、2月回収分まで

◆インタビュー調査

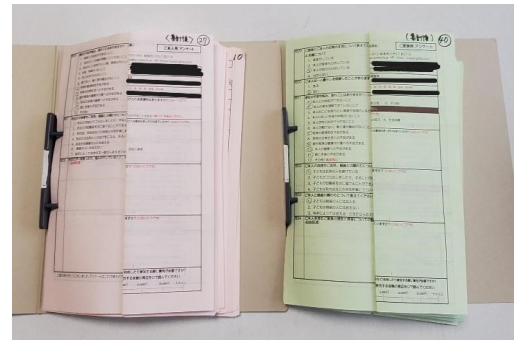
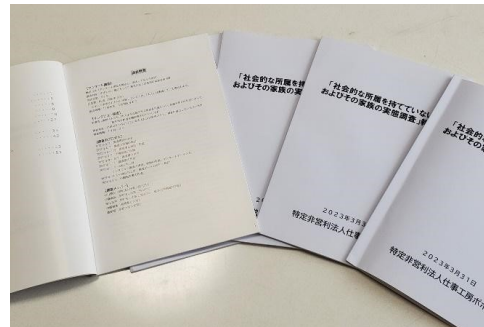
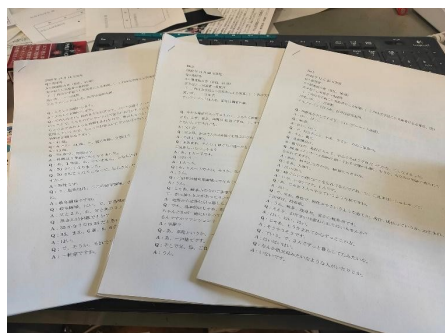
調査方法:半構造化面接(あらかじめ大まかな聴き取り項目を用意しつつ、対話や語りの状況によって、聴き取る内容を随時修正していく方法)および逐語録の作成
調査対象:ポポロとつながっている本人および家族のうち、調査に協力していただいた方10名
調査時期:11月～3月

◆調査のプロセス

2022年5月 調査趣旨の共有
2022年6月 調査方法論の検討
2022年6～7月 調査項目検討・作成
2022年8月 予備調査の実施
2022年9～10月 調査票の作成
2022年11月 調査票の発送
2022年11月～2023年3月 インタビュー調査実施、記録作成、データ入力
2022年12月～2023年2月 調査データの分析・検討
2023年3月 中間報告書の作成

冠寄付者(東海ろうきん)へのメッセージ

本事業に助成いただき、ありがとうございます。「調査」というと、一般的には研究者や業者の仕事であり、市民活動とはあまり縁のないものとイメージされがちな状況もあるなかで、本事業を採択することは、なかなか大変だったのではないかと推測します。しかし、本報告で記しているように、一口に「調査」と言っても、当事者を単なる「素材」にしてしまうような調査もあれば、本事業のように、実践と深く結びつき、当事者とともにある調査もあります。「目の前の課題」への対応に追われがちな地域の市民活動に対し、その活動が有する社会的意義を可視化し、社会に発信していくことは、今後いっそう求められてくる課題だと思われまますので、ぜひそうした広い観点に立った助成を今後も維持・発展させていただければと思う次第です。



事業の成果

本事業がめざす課題解決(ひきこもり状態にある当事者および家族の実態を把握し、当事者・家族が求める支援を整備していくこと)は、今回まとめた報告書を用いて関係各所に働きかけていくことでようやく果たしていけるものであり、その意味で現時点ではまだ道半ばに過ぎないが、さしあたり本事業の範囲内で見えてきた成果についてまとめておく。

①「声が聴かれる」こと

今回の調査対象者は、なんらかの形で当団体とつながっている方々であり、まったくの孤立状態にあるわけではないという留保がつけられるものの、それでも自分の実情や想いについて、なかなか率直に話せる機会・場があるわけではない。そうした人びとに対し、本調査は「支援」ではなく「調査」という名目でフラットに聴くことができ、それが当事者・家族にとって貴重な吐き出しと整理の機会になったという効果が見出せる。

②自身の経験が「意味のあるもの」だとされること

上記の「聴かれること」の派生として、本調査はただ「聴かれる」というだけでなく、「自身の経験が他の誰か(さらには今後の地域社会)の役に立つ」という積極的な社会的意義を有しているという点も大きい。本調査に応じてくれた当事者・家族の方々は、単なる「対象」ではなく、調査を通して社会に訴えかけていく活動の重要なパートナーである。実際、本調査でも「調査」ということで初めて当事者とコンタクトが取れた人もいし、インタビューでも「今後の支援の充実に役立ててください」「期待しています」など、本調査に対する期待を込めて自身の経験を赤裸々に話していただいた方もいる。自己の経験を否定的にのみ捉えてきたこれまでに対し、その経験こそが社会にとって意味のあるものになるという反転の契機が、本調査によってもたらされたと言える。

③支援現場での「あたりまえ」が言語化されたこと

実際の調査分析の結果見えてきたことの多くは、関係者にとってはごくあたりまえのことに過ぎないが、それが個人的な感触・体感ではなく、具体的なデータとして抽出されたことにより、「客観的で根拠のあるデータ」として多方面で活用していくための素地ができた。本調査で見えてきた知見が、他の現場での実感値とどの程度整合性があるのかは、今後の検証課題となるが、現場での「あたりまえ」が言語化され可視化されることにより、ふだん何気なくやっている活動の意義が実践者の側にもフィードバックされ、今後の支援の改善および更なる発展にも寄与することが可能になる。

【D】たんぽぽ薬局「キッズまんぷく」基金「こども食堂応援助成」(2年目)

全3件 合計 150,000円

① 岐阜キッズな(絆)支援室 (岐阜市)

助成事業名 てらこや無償塾 子ども食堂・子ども宅食事業

助成額 50,000円(使い途:食材(お米))

実施内容

新型コロナウイルスの感染拡大により、経済格差が一層拡大し、元々生活基盤の弱かった世帯の困窮が一層顕著になった。1日1食など子ども達の成長に影響を及ぼすような事態になっている。食糧支援は、食事面の支援だけでなく、困窮世帯を孤立させないためにも、重要な役割を果たす。訪問することにより、子どもの状況把握や孤立の防止・虐待の早期発見などにも繋がり、「いつも気にかけてくれる」「困ったら助けてくれる」というメッセージを食品提供という形で表し、大変効果がある。そこで、本助成金を活用して主食の「お米」を購入し、全世帯に配布した。

冠寄付者(たんぽぽ薬局)へのメッセージ

たんぽぽ薬局様の助成金は規制の少ない助成金で、団体が必要としていることに使えて大変ありがたかったです。コロナ禍に加えて、昨今の物価・光熱費の高騰により、頻りに「お米がない」「食品を買うお金がない」等のSOSが届き、毎月食糧支援(子ども宅食)もしています。これに関する助成金は滅多にありません。



事業の成果

「お米がなくなった」と相談をしてくる困窮家庭は多い。今年度は特に、コロナの感染拡大でてらこや無償塾が開催できない時期もあり、食糧を届けて家庭と子どもを見守る「訪問支援(食糧支援)」にも力を入れてきた。今回は助成金で1世帯に3kgの米を渡すことができ、全ての家庭が喜んでいて、配った家庭からも、子ども達が成長してきて、ご飯をすくよくよく食べるようになって食費がかさむので、お米は特にありがたい等、感謝の声が多く届いた。

今回たんぽぽ薬局様の助成金を使って、大々的に食糧支援ができました。今回は、たんぽぽ薬局様の助成金を利用して各家庭へ3kgを渡すことができたので本当にありがたかったです。いつもは、頂いたお米を小さな袋に分けて子ども達に持たせるのですが、今回は「3kg袋」でお米を袋のまま各家庭に配ったので、大変喜ばれました(*^-^*)

② NPO法人スマイルBasket (岐阜市)

助成事業名 「満腹になって さあ！勉強」事業

助成額 50,000円(使い途:食材、消耗備品、消耗品)

実施内容

岐阜市と協働の「よりそい型学習支援」を実施中である。夕方6時の開設時間の関係で、夕御飯を食べてこない子どもが多い。そんな「腹ペコ」状態では集中して勉強もできない。「家に帰れば温かいご飯が待っている」子ばかりではないことから、休憩中に「小夜食」を食べてもらうこととしている。その際、購入支援していただいた「ホットプレート」等を利用して、助成金で購入した食材や寄付いただいた食材等を使い調理提供した。休憩時に小夜食を共に食べるという経験は、仲間意識の醸成につながるので「学習支援」のもう一つの目的である「子どもの居場所」機能を果たすのに大いに役立っている。

冠寄付者(たんぽぽ薬局)へのメッセージ

ありがとうございます。小夜食は子からも続けていきます。支援いただいている間は本当に助かりました。あちらこちらにある「たんぽぽ薬局」をお見かけると、なんだか身近に感じるようになりました。お立ち寄りいただければ嬉しいです。本当にありがとうございました。



事業の成果

●子どもたちは、信頼してくれると悩み事や心配事も話してくれるようになるが、その信頼を得るために、「小夜食」の提供はとても有効である。「休憩です。ごはんがあります！」の声に列ができるのは、スマイルの支援室の見慣れた光景である。これが成果です。休憩後からまた、1時間以上勉強を進めるが、小夜食前と後では雰囲気が一気に和んだ感じがする。子どもたちがサポーターと楽しそうに勉強している…これも成果です。

●私どもは、小夜食を安全に暖かく提供したいと考えています。昨年度「ホットプレート」を本事業で購入でき、必ず加熱することができるようになり、安全性が特段に上がりました。

●食材は、できるだけ寄付等で賄いたいと考えていますが、栄養が偏らないように考えると足りないものは購入することになります。今の子どもは「野菜嫌い」と決まっていますが、調理して、パン等に挟んで入ると、意外にも残す子どもが少ないのが実感です。

③ よりそいハウスこもれび (岐阜市)

助成事業名 新型コロナ禍での困窮家庭への子ども食事支援

助成額 50,000円(使い途:配布用弁当委託費)

実施内容

新型コロナ禍において支援活動も1年間休止となっていたが、収束傾向になりなんとか活動を再開することができた。前年同様岐阜市芥見飲食店「ねのひ」代表後藤さんをお願いし定例で火曜日と非定例で木曜日にお弁当を作っていただく契約をした。

実施回数で全15日。対象家庭は6家庭、子ども16名。

対象家庭は外国由来家庭、生活保護家庭、親の就業困難による貧困家庭を中心に多子家庭が多い。全150食余りを提供。



事業の成果

1. 昨年同様支援事業の原資があること
2. なかなか顔が見られなかった家庭との再接点になったこと
3. 年度末でドタバタとしましたが食事支援が活動の基盤との認識を新たにしたこと。サポーターのより食事支援を何とかしたいという声が高まり活動を見直すきっかけとなったこと。

冠寄付者(たんぽぽ薬局)へのメッセージ

22年度もありがとうございます。貴社の健康サポート活動によって多くの子どもたちの笑顔をつくりだすことができたと思います。今後引き続き各所でご支援よろしくお願いたします。

助成団体から、ぎふハチドリ基金にいただいたメッセージの一部

私たちの活動や他団体の活動などをシェアしてくださってありがとうございました。SNSでの告知に「いいね」をしてくださった数も増えました。

他団体との交流についてもあわせて実施されている事が心強いです。

余剰金がある団体ばかりではないので、本当に必要としている団体が援助を受けられるようにさらに広く周知されることを願っています。今回はありがとうございました。

助成プログラムが変更されて、より幅広い事業に対して助成していただけるようになりました。助成を希望する側としては実施できる事業の選択肢が増えたのでありがたいです。また、助成希望金額が比較的少ない小規模の事業にも助成していただけるので、その点もぎふハチドリ基金の魅力だと思っています。ぎふハチドリ基金の助成金の経験を通して、活動を広げていくことができています。

はじめて応募しましたが、丁寧に教えて下さり感謝いたします。他の助成金情報や寄付の食糧や、ホームページのご案内もいただきました。まだまだ始まったばかりの団体なので、情報の提供は有難いです。また相談にものっていただけるのでとても助かりました。



初めて助成金というものに挑戦しました。活動の中でいろいろな問題がありましたが、事務局のフォローがとても励みになりました。助成だけでなく、見守ってくださる姿勢がありがたかったです。



団体構成員の必要経費も助成対象となること、事務的負担が少ないこと、親身に相談にのっていただけることなど、活動団体にとっては助かることばかりです。さらには「アットホームで温かい」ことが活動意欲の高まりに繋がっています。地元ならではの良さを今後も生かして下さると、救われる団体さんが増えると思います。

団体の困りごとなどの相談に乗っていただけることが、本当にありがたいです。これからもよろしく願っています。

様々なメニュー助成金があり、申請しやすいです。

ぎふハチドリ基金は、領域・地域を限定したローカルな助成団体ということもあってか、各地で展開される市民活動に対し、とても丁寧に支えてくれていると感じています。ぎふハチドリ基金は、「ともに活動をつくる仲間」として一緒に事業をつくってきたような感覚を抱きました。今後は、そうした「助成団体による丁寧な伴走」というのがどういったことで成り立っているのかを可視化し、他の地域に対しても発信していけるようになると、日本社会全体の市民活動の更なる活性化にも寄与できるのではないかと考えた次第です。

岐阜県内で子ども子育て家庭の支援活動に取り組む団体と支援者をつなぐ架け橋として、より一層活発な活動を期待しております。子どもたちの明るい未来のため日々ご尽力いただきありがとうございます。

子育て家庭は、ママもパパも子育てに一生懸命になり心のゆとりが持たなくなりがちです。ママパパの様子を子どもたちは敏感に感じるからこそ子育て家族には、心のゆとり、安心の提供が大切です。ぎふハチドリ基金の活用により、より多くの子育て家庭の皆様が笑顔になることができると思います。



..... あなたのあたたかいご寄付により、この仕組みを支えてください

ぎふハチドリ基金への寄付には、いろいろな方法があります。

- ①右のQRコードから、寄付募集のページにアクセス
- ②リーフレットの振り込み用紙を利用
- ③ソフトバンク「つながる募金」
- ④東海ろうきんNPO寄付システム
- ⑤羽島市ふるさと納税 など

詳しくは事務局にお問い合わせください。





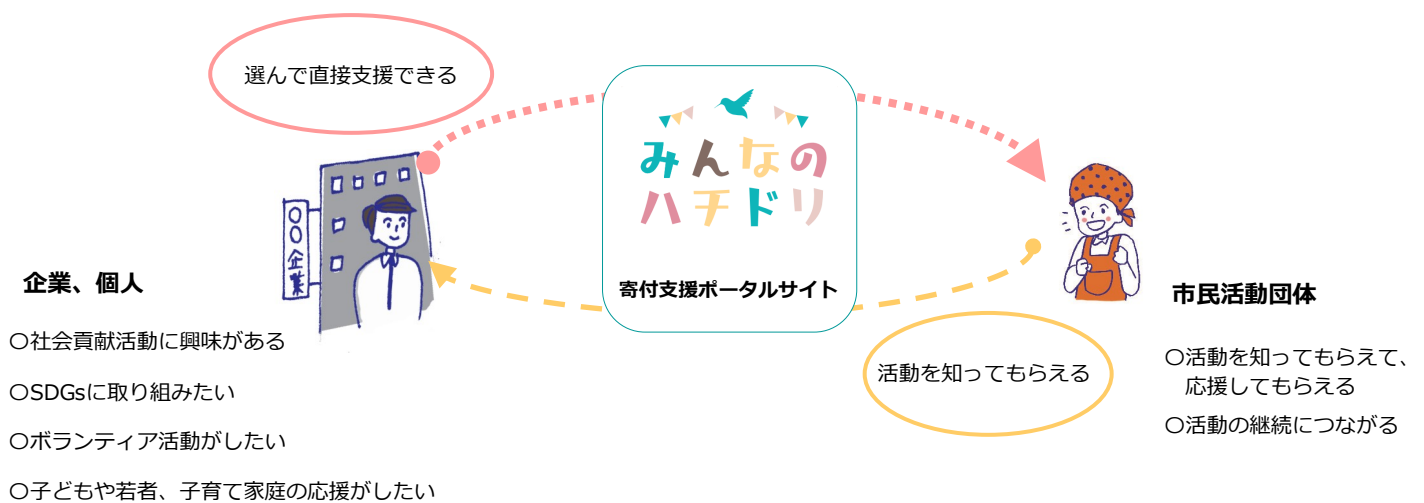
みんなのハチドリ

minnano hachidori

岐阜県内の子ども、若者、子育て家庭の支援に取り組む団体と

みなさんをつなぐポータルサイトができました。

地域貢献をお考えの企業、個人の皆さまは、ぜひご活用ください。



▼みんなのハチドリのポイント

- 子ども・若者・子育て支援団体も詳細情報を一覧できる
- 寄付やボランティアを希望する支援団体に直接アクセス
- 厳しい基準を満たした支援団体のみご紹介
- 10年以上の実績がある、ぎふハチドリ基金が運営
- 岐阜県への地域貢献、新しいつながりの創出

▼支援する団体を探して寄付ができます



- 目的別やフリーワードで探すこともできます。

興味・関心をお持ちになった団体の詳しい情報をご覧いただき、各団体まで温かいご支援をいただきますよう、お願いいたします。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



認定特定非営利活動法人 **ぎふハチドリ基金**

〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-12

岐阜県シンクタンク庁舎3F ぎふNPOセンター内

TEL 090-8736-9739 FAX 058-275-9738

Mail hachidori@gifunpo-fund.org

HP <https://gifunpo-fund.org/wp/>